

「クラボウにおける品質管理教育とQC検定の活用例のご紹介」

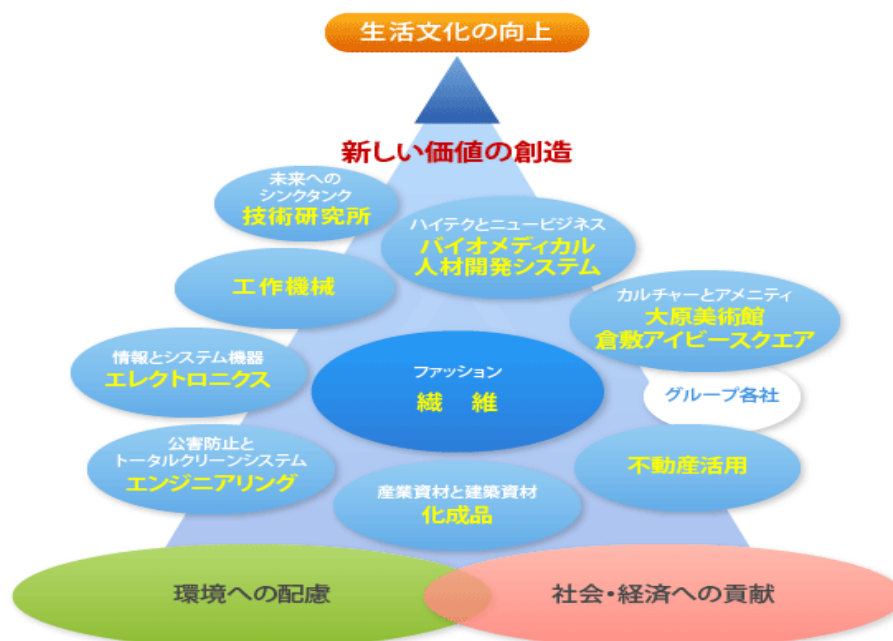
クラボウ
化成品事業部
副事業部長 的場 博

1. 会社概要 ～はじめに～

クラボウ（倉敷紡績株式会社）は、我が国が明治維新後の混乱期を終え近代国家として歩み始めたのと時期を同じくして、1888年（明治21年）に岡山県倉敷に「有限責任 倉敷紡績所（*注1）」として誕生致しました。その後、明治・大正・昭和そして平成の4つの時代にわたり、繊維事業を中心に『生活文化の向上』という経営理念のもとにグローバルに事業展開し、2013年に創業125周年を迎えます。我々の化成品事業部は1962年に生産を開始したポリウレタンフォームを皮切りに、合成木材、無機建材、機能性フィルムおよび精密製品について、大阪本社・東京支社を中心に国内5工場、国内関係会社4社、海外関係会社2社の全14拠点で製造・加工・販売を行っております。

経営理念

私たちクラボウは、新しい価値の創造を通じて生活文化の向上に貢献します。



創立： 1888年3月9日

資本金： 220億40百万円

従業員数： 全社（グループ連結） 5,036人（2012年3月31日現在）

うち化成品事業部（グループ連結） 909人（連結で臨時従業員を含む）

URL： <http://www.kurabo.co.jp/>

*注1：倉敷アイビースクエア（旧倉敷紡績所発祥工場）の建物は、2007年（平成19年）11月30日に経済産業省より「近代化産業遺産」に認定されました。

Chemical Products Division

化成製品事業部

産業資材・日用品分野

- 軟質ウレタンフォーム
- 接着フィルム
- 汎用板材

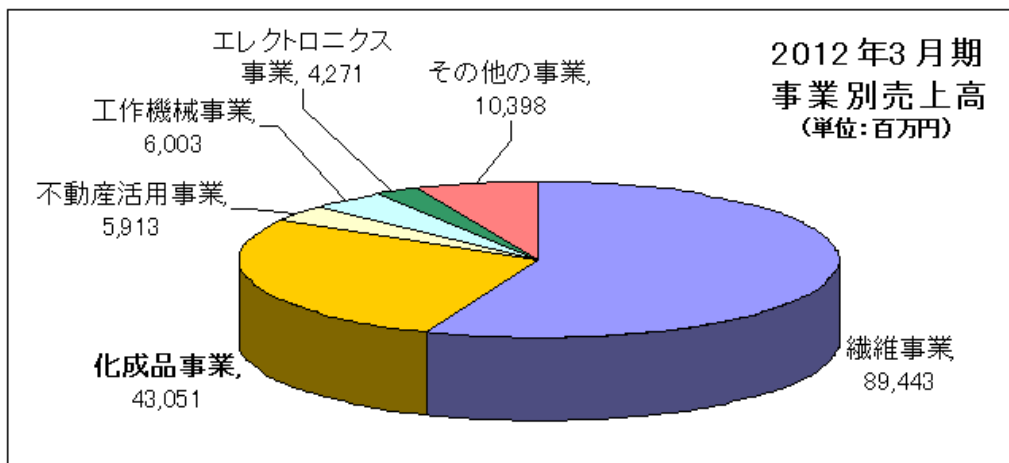


電子部材・半導体関連分野

- フッ素樹脂製フィルター
- フッ素樹脂製継ぎ手
- 多成分濃度測定装置
- 薬液供給システム
- フッ素樹脂材料・成形品
- 高機能フィルム

住宅建材分野

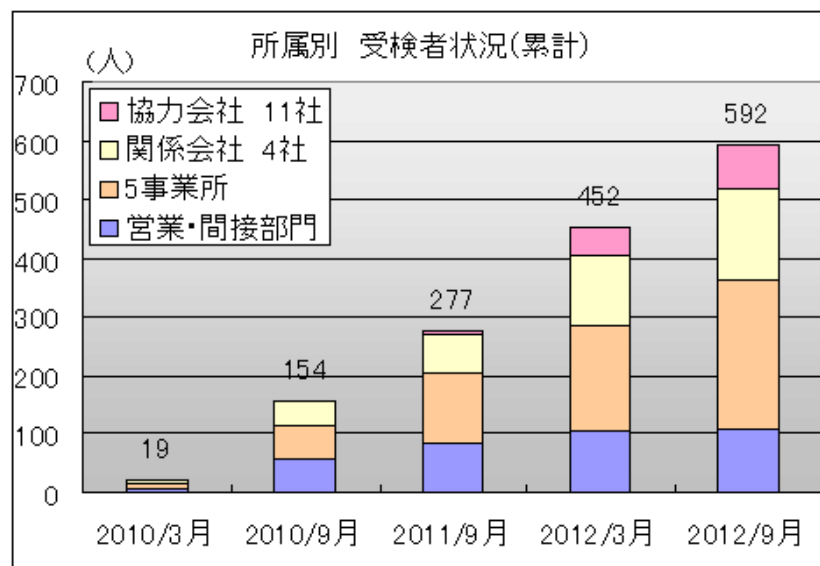
- 外装部材
 - ・ クラティス
 - ・ ティンバーシステム
 - ・ モールコレクション
 - ・ 格子パネル
 - ・ 化粧まわし・超木
- 硬質ウレタン
 - ・ ボード・パネル・原液
- 真空算熱材 (VIP)
 - ・ クランパック
 - ・ ユニサルペット
 - ・ ビグラス
 - ・ ペーパーVIP
- 高性能住宅
 - ・ APシステム
 - ・ ソフティセルONE
- 内装部材
 - ・ 住宅用水廻り部材
 - ・ トイレ用手洗収納カウンター
- 高機能素材
 - ・ クランリーブ
 - ・ クランパリエ



2. 導入の経緯について ～中期方針『先手の品質力強化』とQC検定～

当社では全社教育として従来から品質に関する研修を実施しております。しかしながら化成品事業部ではなかなか現場力に繋がられないという問題点がありました。第9回QC検定(2010年3月)を本社品質保証課員と事業所の一部の品質管理担当者だけで受検したところ、この検定が職種・職能に関わらず経営品質の向上と品質重視の考え方を浸透させることに、大変役に立つことが判りました。そこで2010年にスタートしました中期計画SS'12における化成品事業部の方針『先手の品質力強化』の一環としてQC検定に取り組むことにしました。「品質に聖域無し」を合い言葉に、クラブウ化成品事業部の事業所と関係会社の製造・開発・営業・間接部門など全社員を対象に受検を開始しました。

また現在は、品質に関わる共通理解を深めるためにクラブウ化成品事業部グループとして協力会社にもQC検定受検を働きかけており、その結果、団体申し込み制度を利用して計11社から延べ約30人が受検しています。協力会社がQC検定を一緒に受検することで品質に関わる共通認識ができ、化成品事業部の担当者からは様々な面で開発や製造が進めやすくなったとの声が上がっています。



3. 化成品事業部での取り組み ～QC検定の活用例～

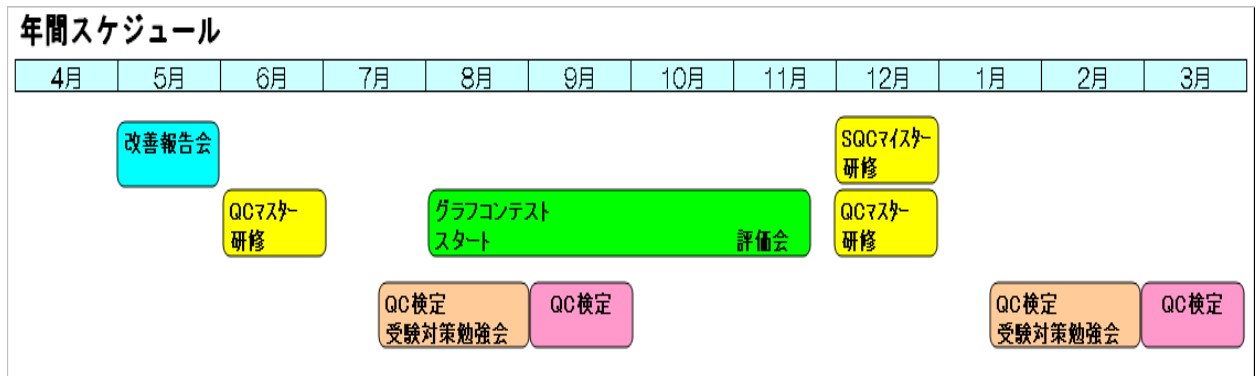
化成品事業部では、QC検定につきましては基本的には『自主学习』としています。団体受検を開始した当初は、化成品事業部合格率は全国平均を大幅に超えていましたが、団体受検の回数が増えるにしたがって自主学习に頼っていたため、全国平均に近づいてきました。ありがたいことに2級に合格した人が講師となり、受検対策の勉強会を実施する事業所が自然発生的に出てきました。今では勉強会を実施する事業所が他にも増えてきています。勉強会の進め方については事業所によって様々ですが、主に過去問題の解説や基礎的な知識の学習を実施しています。このような勉強会が受検者とさらには合格者のモチベーション向上に繋がっているように感じます。

また化成品事業部では、従来から各事業所での小集団活動による改善活動に取り組んで

おり、毎年5月には事業所の代表者が本社に集まり『改善報告会』で改善成果を発表しています。従来から行っている全社教育によりQC手法は一部では使われていましたが、なかなか深く効果的に活用出来ていませんでした。そこでまず、『改善報告会』の評価項目としてQC手法の項目を明確化し、従来の経営審査員とは別に2級合格者を『技術審査員』として採点を実施しました。このように小集団活動でもQC手法を使うと評価されるしくみを設け、活用を促しています。

次に化成品事業部主催で、現場にあるデータをQC手法を使って分析する『QCマスターコース』研修をQC検定3級受検者を対象に実施し、現場でQC手法を活用する場としてQCマスターコースへの参加事業所を対象に『グラフコンテスト』を開催しました。

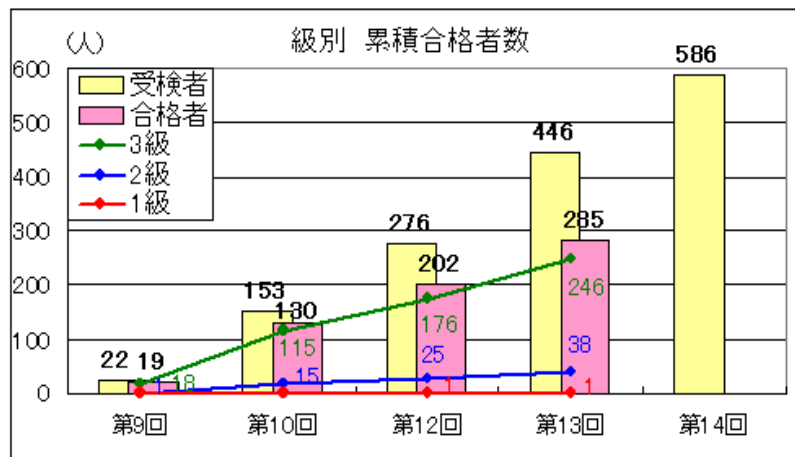
このように春の『改善報告会』や秋の『グラフコンテスト』などQC検定で習得した知識や手法を現場で実践することで、全社員への品質の意識づけや品質技術の向上に繋がっています。



4. QC検定の受検状況

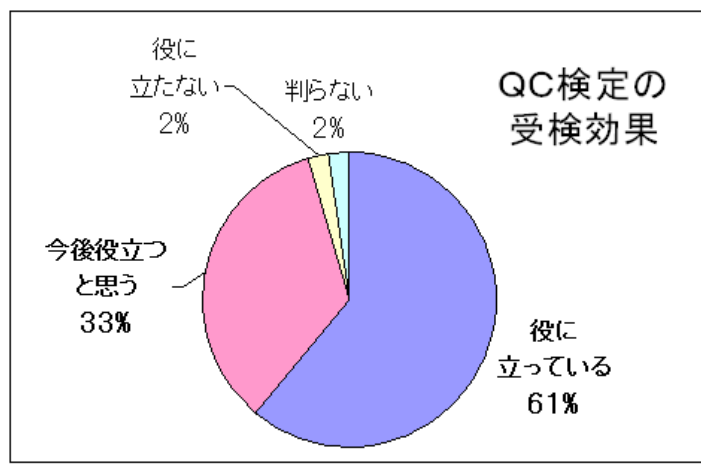
受検対象者:化成品事業部全社員(連結で臨時従業員を含め909人 2012年3月31日時点)
および協力会社

目標 : 2015年3月までに開発・技術部門については2級合格、それ以外は3級合格
現在は技術統括部品品質保証課が取りまとめを行いながら受検の拡大を進めています。次期中期計画においてもQC検定の受検の奨励を継続する予定です。



5. 合格者の声

過去のQC検定受検者の声は、「役に立っている」または「今後役立つと思う」が大多数をしめています。



職種	取得級	QC検定を受検して役に立っていますか?	受検の感想
営業・総務	3級合格者	役に立っている	顧客との打合せでは、QC検定3級程度の会話が頻繁に出てくるため受検していて良かったと感じている。恐らく、受験前には、顧客の質問を理解できていなかったこともあったのではないかな。
営業・総務	3級合格者	役に立っている	3級を取得して、日頃の業務、客先との会話で役に立っているので、是非、いろんな人に受験を勧めていきたいと思います。
開発課	2級合格者	役に立っている	QCを勉強し、感覚的ではなく、データに基づく数字でモノを考えられるようになった。
開発課	3級合格者	役にたっている	工程能力の把握の考え方を改めて考えることができ、開発業務の新規試作等では管理ポイント、顧客との寸法公差決定などに非常に役立つと思う。
製造課	2級合格者	今後役立つと思う	受検することでさまざまな品質管理方法を勉強することが出来ました。現在は勉強した事を活かしてきれてないので、今後は現場の品質力向上に役立てたいと思います。
製造課	3級合格者	役に立っている	データをまとめるのが苦手でしたが受験をしたことによりまとめ方の範囲が広がった。
製造課	3級合格者	役に立っている	QC検定を受講して役に立っているを選択しましたが、今のところ少しずつ役に立っていている状態です。今後、QC検定で勉強したことをドンドン活用していきます。3級は全社員持っていた方がいいと思います。
品管	2級合格者	役に立っている	QC検定は特に製造業において品質を維持、向上させていく上での基礎知識を多く含んでいて、日常業務で物事を正しく判断する際の規準、品質に関する基礎体力であると感じています。統計的手法についても起こっている事実・現象を正確に把握し、解決への糸口を見つけるのに有効であり今後、いかに実務に活かしていくかに重きを置いて仕事をしていきたいと思います。
品管	2級合格者	役に立っている	データのまとめ方など、頭の中で漠然としていたものや理解不足だったものが、受検にあたり勉強することで整理され、QC手法の理解につながりました。2級レベルの手法に関しては業務で100%生かし切れていませんが、少しずつでも取り入れて問題解決につなげていきたいと思います。
協力会社	3級合格者	役に立っている	まだ実際の業務で資料を作成する場面はありませんが、社内の会話の中でも専門用語等を使った発言も出ており、理解も出来る部分が増えました。今後も品質管理の場面で役立てていければと思います。

6. 学校（学生・生徒）に期待すること

一般的に「品質＝製品のできばえ」と考えている人が多いと思います。しかし「品質」は製品の質だけでなく仕事の進め方やサービスの質を含んでいるので、会社全体のブランドイメージそのものを表わしています。私達はその基本を学ぶ手段の一つとして、QC検定を位置づけています。例えば品質の現状の分析手法であるQC7つ道具は営業・販売・サービスなどのデータ分析にも役立ちます。

社会に出てすぐに「会社に貢献できる人材」としての基礎体力づくりのために、学生時代の受検をおすすめします。

7. おわりに ～QC検定に期待すること～

製造業にとって、品質向上はお客さまとの約束の一つと考えています。お客さまの満足を得るためには、必ず品質を向上させなければならないのです。

かつて「現場作業は勘と経験」と言われていたこともありますが、QC手法を使うことで経験がグラフ化され、見える化されはじめています。勘と経験を見える化することで、技術者の世代交代もスムーズに行いやすくなると考えています。

実際問題として、社員一人一人の品質意識を確認することはなかなかできません。しかしながら、QC検定のチャレンジ以降、現場で楽しみながら技術を見える化している様子を目にすると、確実に品質意識が向上していることが判ります。今後も引き続きこの検定を一つの教育ツールとして活用していこうと考えています。

QC検定へのチャレンジが全社員のモチベーションアップに繋がるように、ますます魅力ある検定になっていくことを期待しています。

以上